

## 令和6年度（瀬谷支援学校）不祥事ゼロプログラムの検証等

### ○ 課題・目標別実施結果

課題	目標	実施結果と目標の達成状況
①法令遵守意識の向上 (法令の遵守、服務、規律の徹底)	勤務時間の内外を問わず 教育公務員として自覚を持ち、法令を遵守し、非違行為を防止する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議や朝の打合せ等を通じて、教職員一人ひとりが、法令順守の意識を持ち行動することができた。</li> <li>日頃から、職員同士で何でも話せる、風通しの良い職場づくりを心がけ、公務外非行の防止に努めた。</li> </ul> <p>※臨任・会計年度職員への研修 ○不祥事防止研修（7月）</p>
②職場のハラスメント（パワハラ、セクハラマタハラ等）の防止	ハラスメントについての理解を深め、職員間等において、他者の人格を尊重し、品位ある言動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>不祥事防止研修会等で具体的なハラスメント事例を示すことで理解を深め、相手の立場を尊重して行動することを意識できるようになつた。</li> </ul> <p>○不祥事防止研修（11月）</p>
③児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	児童生徒の人権を尊重し、年齢や性別に配慮した指導支援を行い、絶対にハラスメント行為をしない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>面接や指導支援は、密室状態にならないような環境設定を心がけて実施した。</li> <li>児童生徒の発達段階や、生活年齢に配慮した指導支援を行うことができた。</li> </ul> <p>○不祥事防止研修会（1月）</p>
④体罰、不適切な指導の防止	児童生徒の人権を尊重し、障害や行動の特性や実態に合った適切な指導を行う。紛らわしい行為を含めて絶対に行わない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の示す行動に対して、冷静さを保つつ、行動の原因を見たてながら、時としてチームで指導支援にあたることが増えた。</li> <li>「さん付け呼称」については、学部によって取組に差異がある。次年度以降も継続して取り組む必要がある。</li> </ul> <p>○不祥事防止研修会（12月）</p>
⑥個人情報の管理、取り扱い、情報セキュリティ対策（パスワードの設定、誤廃棄防止）	個人情報の扱いについて、理解を深め、個人情報の保護かつ安全な運用を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報を含む文書の取り扱いについては細心の注意を払い、発出、受領の記録を必ずつけ、紛失や漏洩を未然に防ぐことを引き続き徹底した。</li> </ul> <p>※情報研修会（4月）</p>
⑦交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通事故の発生を未然に防止する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通事故、交通違反の軽重を問わず、速やかに管理職に報告することができた。幸い大きな事故に至ることはなかった。</li> </ul> <p>○不祥事防止研修（12月）</p>
⑧財務事務等の適正執行	適正な会計処理を実行する。 適切な物品管理を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミスや漏れがないよう、ダブルチェックをすることはもとより、書式の統一等の徹底を図り、適切に会計処理を行うことができた。</li> </ul> <p>※備品等の定期点検（毎月） ○私費会計研修会（4月）</p>

### ○ 令和6年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和7年度に取り組むべき課題 (学校長意見)

年間計画通り実施し、概ね目標を達成することができた。今年度も各学部を中心に不祥事防止研修を継続することができた。それぞれの取組は職員会議の場で報告され、管理職が一方的に話す研修より成果が得られたものと考える。今後も引き続き事故・不祥事防止に対する意識を高め「不祥事に対するハードルを下げない」「自分事として考える」という2つのキーワードを継続的に用いることで、職員全員が事故・不祥事の未然防止に努める意識を高めていく必要がある。